

OB会報

第五号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部

OB会 発行

1966. 3. 1

山小屋のこと

山小屋建設準備委員

郡司直樹(四期)

夏季に妙高、戸隠、裏蓼科、菅平の偵察を行ない、予定の候補地は木曾を除き全部偵察を終了した。九月になると第一次偵察活動の結果を検討して、第一級候補地に銀山平(奥只見)、笹ヶ峰(妙高)を、第二級候補地に六日町、土樽、山口(藤原湖)、菅平を推薦することにした。

そこで現役の試験休みを利用し、十月に合同で第一級候補地の銀山平、笹ヶ峰の二

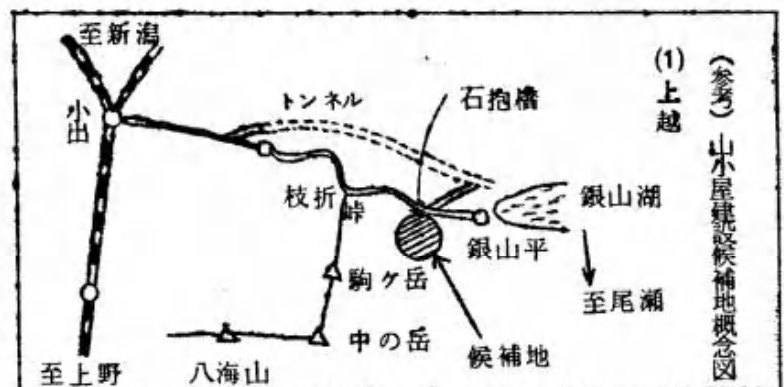
ない詳細な資料を得た。第一次偵察結果の概要と、第二次偵察の詳細は別紙「山小屋建設調査書」を参照されたい。

但しこの報告書は現役向けのものであることを御断りしておく。

大学祭の時のOB総会で、従来の山小屋建設準備会は、調査書の報告によりその任務を完了したので解散し、山小屋建設委員会を新発足した。メンバーは嘉納、吉野、井上、江崎、郡司、亀井、然し現役

側の一致団結して、山小屋建設運動に邁進しようとの気力が欠如している点が問題になり、物理的には資金さえ集まれば設立は困難なことではないが、それではOB、現役が一体となって一つの事業を遂行する切角の機会が充分に生かされない憾みが残る。このため現役一般部員の間に、山小屋建設の熱意が充ち溢れてくる迄は、OB、現役の間のコミュニケーションを密にし一体感を盛り上げる方向に進むことにした。

その後OB事務局会議の席上に、現役OB役員を招喚して、部内の意見を聴取したが、結論として「恒例の年間行事に支障を来さない範囲でしか山小屋建設に協力出来ない」と云う意向であることが確認された。一方OB側はこのような現役側の姿勢では山小屋建設を保留するとの態度であ



(参考) 山小屋建設候補地概念図

(1) 上越

(記・郡司)

昭和四十年年度秋季OB総会報告

★山小屋問題

★OB会則改正問題

★昭和四十年年度横浜国大ワンタールフォオゲル部OB会会計報告

去る十一月三日横浜国立大学経済学部にて秋季OB総会が開催されました。出席者は松本会長外二十七名。議題は、山小屋の件、OB会則改正の件、及び会計報告です。

山小屋の件については、現在、山小屋準備委員会より最終報告が出され、かなり具体的に形になってきましたが、目下問題になっているのは、現役との関係で、現役側が「山小屋は部活動をさまたげない範囲にて協力する」という考え方に立脚している点です。ワンタールフォオゲル部として（OBを含めて）山小屋建設ということ、現役から相当

で、OB会として現役と協力することが困難であるという点に立脚しています。

一、OB会だけで建てる。

慎重討論の後、投票の結果

（投票総数十八票）

現役と協力して建てる

十三票

OB会だけで建てる

五票

を得ました。即ち、山小屋を建てるという本来の動機に立ち戻ってみれば、挙国一致体制にすべきであるという意見が多数を占め、現役側も出来る限りの協力をするという事で、一応の結論をみました。この結論に基づき、今迄の山小屋準備委員会は解散し、あらため、山小屋建設委員会が設置されることになりました。新メンバーは、嘉納、吉野、井上、江崎、郡司、亀井の各氏です。

次にOB会則改正の件。

（新会則は過日別途郵送致した）。改正の主旨は、新たに事務局を設置し、本会をスムーズに運営するにあります。事務局は専門委員会を設置し、これに意見の答申をさせることが出来ます。現在は山小屋建設委員会、遭難対策委員会（委員長井田）、部史編さん委員会（委員長井上）、会報委員会（委員長米屋）の各委員会を設置されています。つまり、OB会運営上の基本方針は総会にて決定し、実際の事務は横浜、東京在住の事務局員が行なうようにした方が、OB会の活動に便利であるとの考え方に基づくものです。但しこのために、事務局にある程度の権限をもたせ、事務的な雑用は、全部事務局にやらせ、事務局が独走しそうな場合は、第三十一条第五項によりこれをチェックするようになっています。尚、事務

昭和40年度横兵国大アンダーフォーゲル部OB会会計報告

40. 9.30

| 摘 要 | 支払金額 | 摘 要 | 収入金額 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 第2期幹事活動費 | 10,000 | OB会費 | 52,000 |
| 第3期 " | 10,000 | 受取利息 | 727 |
| 山小屋準備委員会払 | 5,000 | 39年度戻入 | 260 |
| 事務局活動費 | 5,000 | 前期繰越 | 27,045 |
| 現役スカイライン清算 通信費 | 11,965 | | |
| 第3期幹事活動費追加 | 2,000 | | |
| OB会報発行費用 | 4,700 | | |
| 備品 {ハンコ 印刷器具} | 3,590 | | |
| OB住所録発行費用 | 13,000 | | |
| 関西支部仮払 | 5,000 | | |
| 雑費 | 400 | | |
| 次期繰越 | 9,377 | | |
| 計 | 80,032 | 計 | 80,032 |

局長には、我々不良独身者の代表たる嘉納氏が選任されました。それから、総会の定数ですが、今回の改正により、委任状が認められることになり、委任状を含め、過半数の出席がなければ、総会は開け

なくりました。(第二十、二十一条)。又、地方支部が正式に認められ、本年度より、関西支部が発足しました。OB会員がふえるにつれて、全国各地に支部が設置されるものと思われま

このほか、準会員、家族会員を制度化し、会員皆様の御便宜をはかることにしました。お申し込みは事務局までお早めください。

OB会則はかなり長いものですが、会員皆様のものですが、一度は目を通して下さい。最後に会計報告ですが、左記の通り承認されました。昨年はなんとかやりくりしてきましたが、OB会が少し動き出しますと、なにせお金がいりますので、OB会費未納の方は大至急、幹事までお送り下さい。

今度の会則改正により、大體事務的な面は片付きましたので、次回の総会からは、事務的な話が必要最少限にとどめ、会員相互の親睦に重点をおきたいと考えております。又、開催地も三年に一度は関西地方という話もありますので、皆で京都見物もよからうなどと話し合っております。(四期 跡部)

遭難対策委員会

OB、現役合同の遭難対策委員会(準備会)が新たに発足し、去る十二月十八日第一回会合をもった。

議題は(1)遭難発生の場合の暫定的連絡網について。(2)遭難対策委員会の今後のすすめ方などである。

第一については主に遭難に際する救護活動の前提条件についてのOBと現役の要望、及び遭難発生の場合の暫定的連絡網の整備の二点について話し合いを行なった。

第二については一月二十一日に遭難委を催きそこできとり上げるべき問題を提起し合って正式な検討項目とし、本年三月を目標に一応の結論を得るよう努力すべく双方の了解があった。(三期 井田)

があればまだまだどこへでも
出かけて行く元気はあるつも
りです。

◇宮崎 紘(二期) ※最近

は年のせいでしようか何をする
ものも面倒くさくてしょうが
ありません。十月のはじめに
六甲山で関西のOBの面々と

楽しく遊んだのが下津を出た
唯一の機会、大好きな奈良の
寺歩きもしばらく御不沙汰し
ているとこんな状態です。

◇甘粕佐紀子(三期) ※毎

日仕事に追われながらも、三
十八人の子供達と楽しく元気
に過ごしております。バカさ
發揮でハッスルしています。

◇永田明彦(四期) ※そろ

そろ論文を集めなくてはなら
ないし、また来年やる事を調
べなくてはならないし、また
単位をとるためにレポートを

書かなくてはならないしと暮
れもせまってから、少しいそ
がしくなってきました。でも

正月は一週間程休めそうで今
年ものんびり冬休みです。

◇横山幸子(旧姓広瀬)

(四期) ※冬の甲府盆地の寒
さは格別です。甲府に落ちつ
いたものの、主婦業に、勤め
にと忙がしいですが元気でや
っております。

◇羽島継男(五期) ※十二

月五日久しぶりに岡本、諸角、
三宅、金子、向井と仲間六名
が四日市に集合して大いに意
気まきました。みんなは張り
切って初年兵生活を送ってい

る様子ですが、小生の方は相
変らずの予科練生活で、列車
を索いては大阪に、静岡に走
りまわっております。いずれ
職がみつかると思えますが、

目下車引き実習に励んでいる
といったところです。

◇諸角壮弼(五期) ※割り

りと元気に生きています。サラ
リーマンというものは学生時
代より金が無いものですね。

驚きました。

◇片野昭子(五期) ※学校

の行事に追われ自分の時間さ
えろくにつくれずヒイヒイ言
っている次第です。私の方に
は美術科の行事で作品展など
があり、お勤めしても絵は描
こうと思ひ頑張っております。

卒業して尚、美術科のOGと
してワンゲルの方がおろそか
になりがちで、両立って難し
いものだと感じています。

新春カルタ会

|| 六期が優勝 ||

一月二日鎌倉の運乗院でO
B現役合同の新春カルタ会が
行なわれた。

カルタ会といっても、久し
ぶりに会う顔ぶれとあって、
OB現役が入りまじって話の
方に花がさいた。

参加者は三期が白井、井上。

四期は跡部、谷上、安部、谷、
牧原、橋出の他、仙台の永田、
新居浜の斉藤伸、四日市の斉
藤貞。

五期は所、須賀の他、佐世
保の矢島、北九州の深尾、大
阪の岡本、諸角、名古屋の羽
島の十八人。

現役は二十一人。
なお本年よりはじまった現
役OB対抗は二対一でOBが
勝ち、男女対抗は二対一の引
きわけに終り、総合各期対抗
は六期が優勝した。

(三期 井上)

月例ワンダリング

OB会活動の活発化のため
に、またワンダリングはした
くてもなかなか自分から出に
くくなっている人達のために

もと、月例ワンダリングが行なわれるようになった。

九月二十六日 高水三山

井上、塚原、谷

軍畑 一 高水山 一 岩茸

石山 一 御岳

奥多摩らしい静かな山だった。

十月二十四日 扇山

吉野、塚原、井上、井田

夫妻、谷

鳥沢 一 扇山 一 大野貯

水地 一 四方津

最高の天気で、頂上でモチまでやいて結構でした。

十一月二十八日 狩場坂峠

塚原、嘉納、吉田和、吉

野、岩村、井上、井田、跡部、

郡司、谷上

吾野 一 狩場坂峠 一 丸

山 一 吾野

上天気、丸山の直登といい、バスに間にあうように走った

り、みんなまだ若い若い。

十二月五日 大山

跡部、嘉納、吉野、金田、齊藤貞、谷上、郡司、谷、

織田、亀井、所、須賀

青山荘 一 大山 一 伊勢原

晴天にめぐまれ、四日市の

二人も参加し愉快だった。

下りはケーブルの乗りぞめ。

二月十九日と二十日

苗場スキー場

後述のため以下略。

第五回月例ワンダリング

☆ 苗場スキー行

二日時 二月十九日と二十日

(夜行日帰り)

一行先 苗場国際スキー場

今年最初の月例ワンダリン

グははじめてのスキー行。

十九日(土)夜横浜駅崎陽軒

前に集ったメンバーは常連、

新顔半分ずつの九名。

中にはOB会嘱託であるヤ

ガミ氏の友人ナガミ氏の顔も見られた。

顔役の嘉納事務局長、井上

氏の顔がみられなかったのは、

一抹の淋しさが感じられたが

織田幹事長の統率のもとにO

B五名、OB四名は、和名あ

いあいと横浜をあとにしたの

であった。

一週間の遊びの疲れが出て

ぐっすり眠り込んでしまい、

寝ぼけまなこでゆり起こされ

たときは、朝四時すぎバスは

すでにスキー場に到着してい

た。

あたりは真暗やみのはずな

のに、ほの明るいはナイタ

ー照明のせいか(夜明けのナ

イターとはこれいか)

世の中には元気を奴がいる

ものだわいと感心しながら食

堂に入り、ささやかな朝食を

とりつつウトウトまどるむう

ちに夜も明けてきた。

仕度もそこそこに、スキー

をかついで出てみればすでにリフトは満員。

グレンデは赤青黄の花盛り。

下界はいさぎよくあきらめ箇

山直下へと通じているゴンド

ラめがけて一目散。早かった

ので三十分程待って登乗出来

た。

箇山グレンデはリフトは一

基しかないが、下に比べれば

空いていること夢の如し。雪

質も格段の良さ。

ファイター郡司氏を先頭に

ワンゲル精神を発揮し、リフ

トは敬速して歩け歩け。

十時半まで充分練習して見

違えるばかり上達して(?)

いよいよ三キロにわたる大滑

降コースを下ることになった。

金持ちの須賀ちゃんだけが

ゴンドラで下りたので、残り

八名はシュテムあり、ウェー

デルンあり、ころびつまろび

つ一時間かけて無事麓にたど

りついたのであった。全員無

月の例会に井田氏がカミさん
同伴で参加した。会則に家族
会員の項も出来たし、今後ま
すます家族ぐるみのワンダリ
ング参加がさかんになること
を願う。

○……世の中には不思議な
ことが多いもので、たとえば
新春カルタ会の出欠の返事は
半分も返ってきていない。い
ったいハガキはどこにいっち
やっつんでしようね。現役の
OB係と顔を見あわせてなげ
きました。もう返事もよこさ
ない会員には通知を出すのを
やめようかと。……

○……山梨大の主唱ではじ
まったワンゲル研究会が一月
十五、十六日とあったとか。
その時OBについても話が出、
現役はもっとOBの機構につ
いて知るべきだという意見が
出たとか。

一年には会長が誰だかも知
らないのがあるんじゃないか

という話だから、今後PR係
でもつくって、現役の方に大
いにOB会をPRでもします
かな。(三期 井上)

名簿の訂正

一〇二二 河野 哲

(住所) 藤沢市鶴沼桜ヶ岡

一一五一二二

(電話) (藤二二一九五〇〇)

三〇三八 江崎伴雄

(電話) 自宅(藤二一五〇六二)

三〇四五 横手敏江

(住所) 東京都大田区中央

四一八一二

三〇四六 諸節紀代子

(電話) 自宅(藤四一〇〇二五)

三〇四七 宮崎裕子

(住所) 京都市上京区大宮通

笹屋町西入ル

木村三郎方

三〇五〇

前田ミドリ

(旧姓平野)

(住所) 沼津市大岡下石田

一二〇八

三〇五二 森井栄子

(旧姓鋤柄)

(住所) 鎌倉市山ノ内三八一

四〇八〇 横山幸子

(旧姓広瀬)

(住所) 甲府市城東二一五一

一三

(電話) 甲三一七三九六

五一三七 橋出美代子

(電話) 自宅(藤三六一六二二六)

五一〇五 片江英己

(勤務先) 日本楽器製造株銀

座エレクトーン係

三〇三九 金田精彦

(帰省先) 神奈川県中郡伊勢

原町東大竹一〇二五の二

四〇七四 永田明彦

四〇七九 永田多恵子

(旧姓安部)

(住所) 仙台市長町土手内

九一の二

★編集後記★

三寒四温の早春を迎え
ましたが、早大では授業
料の値上げを巡って、連
日の様にはげしい学生運
動が続いております。私
大の学生にとってはただ
でさえ高い授業料なのに
この上値上げされては、
全く生活の権利もおびや
かされるといふものです。
それを思うと国大生は親
孝行ですね。でもワンゲ
ル部に籍を置く人達が親
不孝にならぬ様、部の健
全なる発展を期待したい
ものです。(月干日記)

OB会報第五号

編集責任者 米屋 勝利

発行責任者 松本 正雄

横浜市鶴区生麦町一九

印刷 板橋 膳 写 堂

電話(五〇)五八四七